

第14回

出土文化財展

日時：平成30年6月13日(水)～6月17日(日)

場所：掛川市立中央図書館 1階生涯学習ホール

・平成29年度の保存処理遺物

かくわかたづかこふん

各和金塚古墳出土鉄製品

- 1 出土地点 掛川市各和
- 2 調査時期 昭和55年

各和金塚古墳は、国の史跡に指定されている和田岡古墳群の一つで、古墳時代中期に造られた全長66mの前方後円墳です。

昭和49年(1974)盗掘に遭い、武器、武具、工具、農具、石製模造品等が残されていました。

昭和57年に保存処理を行いました^{おぼ}が、30年以上経過し錆が進んできたため、平成28年、29年度の2ヶ年で鉄鎌、鉄鉞、鉄斧の再処理を行いました。



保存処理された鉄鎌

にしおかつ

西岡津古墳出土 変形獣文鏡

へんけいじゅうもんきょう

- 1 出土地点 掛川市岡津
- 2 発見時期 明治時代末から大正時代

西岡津古墳は直径約13mの円墳で、鏡は開壘によって発見されました。古墳は昭和41年(1966)、東名高速道路建設に先立ち調査され、ガラス小玉、鉄斧、須恵器片が出土しました。古墳時代中期末(5世紀末)に造られたと考えられています。



保存処理された変形獣文鏡

・寄贈された考古資料

やりさきがせつき

槍先形石器

- 1 出土地点 掛川市高田
- 2 発見時期 昭和35年頃

掛川市内で発見されている最も古い石器が、掛川市へ寄贈されました。約1万5千年前に使用された槍の先に付けた狩りをする道具です。この時代の住居跡などは発見されていませんが、人々が生活していたことがうかがえる貴重な資料です。



槍先形石器



・平成29年度に実施した整備事業

わだおかこふんぐん よしおのおつかこふん
和田岡古墳群 吉岡大塚古墳

- 1 調査地 掛川市高田
- 2 工事期間 平成29年7月～平成30年1月

和田岡古墳群は、原野谷川が形成した河岸段丘の南北約2.5km、東西約1kmの範囲に造営された古墳群で、古墳時代中期(約1,600～1,500年前)に築かれた前方後円墳4基と円墳1基が、平成8年に国の史跡に指定されました。

吉岡大塚古墳は、4基の前方後円墳のうちの1基です。平成19年度から史跡整備に向けて発掘調査を行い、全長54.6mで、墳丘には葦石が施され、円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪が立て並べられていたことがわかりました。調査の結果に基づき、29年度から整備工事を開始しました。

29年度の工事は、墳丘を除いた部分の工事を行い、指定地内への電気、水道の引き込み工事や管理道の舗装工事を実施しました。

30年度は、墳丘の造成工事に着手します。古墳を保護するために盛土をし、古墳が造られた当時の姿を部分的に復元していきます。



吉岡大塚古墳 工事着手前 北から



29年度工事終了 西から

・平成29年度の発掘調査

しょうぶがやいせき
菖蒲ヶ谷遺跡

- 1 調査地 掛川市南西郊
- 2 調査原因 工業団地造成に伴う調査
- 3 調査期間 平成29年8月～平成29年12月

菖蒲ヶ谷遺跡は、中東遠総合医療センターの東、小笠山から逆川に向かい複雑に枝分かれする丘陵尾根上に立地する遺跡です。平成9年度、県立掛川東高校の建設の際に菖蒲ヶ谷遺跡は発見・調査されており、平成29年度はその南に続く尾根上を調査しました。

平成9年度の調査では、地面を掘り下げて床面を作る弥生時代後期から古墳時代前期（約1,800年から1,700年前）の竪穴住居跡26軒、溝状の遺構2本のほか、奈良時代の土器と同時代のと思われる焼土が見つっています。また、北側の低地に面する丘陵の先端部では、直径10m程と思われる円墳2基が見つかりました。

平成29年度の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡6軒、溝3本のほか、奈良時代（約1,300年前）と思われる浅い穴などが発見されました。

発見された竪穴住居跡は、出土した土器から平成9年度の調査で発見された竪穴住居跡と同時期のものであり、集落がさらに南まで展開していたことがわかりました。竪穴住居跡内からは煮炊きに使われた炉や土器が見つっています。今回発見された竪穴住居跡の特徴として、一般的な竪穴住居跡にみられる、4本の柱を立てた穴が見つっていません。平成9年度の調査で発見された竪穴住居跡からは見つっている点が興味深いところです。また、調査地中央付近では幅1.5m程の溝が、尾根を断ち切る方向で2本並んで発見されました。この溝を境に、南側では住居跡は存在しなかったことから、居住区の境を示すための溝だった可能性が考えられます。



調査区遠景 南から



調査範囲 西から



竪穴住居跡 南から

竪穴住居跡内 炉跡

竪穴住居跡内 焼土・土器

よしおかばら

吉岡原遺跡（第14次）

- 1 調査地 掛川市吉岡
- 2 調査原因 住宅建築に伴う調査
- 3 調査期間 平成29年4月～平成29年6月

吉岡原遺跡は、吉岡の台地上にある、縄文時代中期から平安時代の遺跡です。今回の調査は住宅の建築に先立ち実施しました。調査では竪穴住居跡が2軒、地面に穴を掘って柱を立てた掘立柱建物跡が1棟見つっています。

今回の調査で見つかった、2軒の竪穴住居跡の平面の形は、どちらも角が丸い四角形でした。1軒は約6m四方の大きさで、4つの柱の穴は見つかりましたが、煮炊きなどをした炉の跡は見つっていません。もう1軒は調査区の隅で見つかったため、大きさは不明です。どちらも見つかった土器から古墳時代前期の住居跡と考えています。

掘立柱建物跡は、1×2間（約3×2.5m）の規模で、柱穴の中からは弥生時代後期、古墳時代前期の土器が出土しています。

今回の調査で見つかった土器は少ないですが、壺や甕、高坏の破片が見つっています。甕は煮炊き、壺は食べ物の貯蔵、高坏は食べ物などを盛り付けるために使われたと考えられています。その他に、祭祀に使われたと考えられている小型の土器の破片や、漁網の重りに使われた土鏝などが見つっています。



調査地点全景 南から



竪穴住居跡1 南から



竪穴住居跡2 北西から



竪穴住居跡2内出土土器



掘立柱建物跡 北から

明和7年（1722）5月21日（陰暦）、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鏝一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク